

「知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー」実施状況等について

知床羅臼町観光協会

1. 取組と経過

- H26. 5/9 第1回検討部会
5/20 第2回検討部会 第1回の課題解決・6月検討会議提出内容の確認
7/14 検討会議 本事業の提案、モニターツアーの提案。
3年間のモニターツアーの実施を承認。
8/8～モニターツアー実施（8/8・9、8/13・14の計2回）
10/9 第3回検討部会 本事業の内容見直し
12/17 第4回検討部会（荒天中止）検討会議に向けた内容の確認 メール協議
H27. 1/22 検討会議 本事業の提案（再）・モニターツアーの継続を承認。
検討部会を実施部会として再構成。
2/1 ガイド登録について検討開始
7/20～モニターツアー実施（計7回）
8/24 第1回実施部会 本事業内容の実施状況確認
9/1 検討会議 本事業の報告

2. 平成27年度 モニターツアーの実施結果について

（1）実施日及び参加者

- 1回目 7.20～7.21
参加者数 12名（ほか添乗員1名）、主催者側 ガイド（船頭含む）4名、観光協会1名
- 2回目 7.21～7.22
参加者数 13名、主催者側 ガイド（船頭含む）4名、観光協会1名
- 3回目 7.24～7.25
参加者数 10名（ほか添乗員1名）、主催者側 ガイド（船頭含む）5名、観光協会1名
- 4回目 7.28～7.29
参加者数 10名（ほか添乗員1名）、主催者側 ガイド（船頭含む）4名、観光協会1名
その他 検討会議座長 敷田麻美氏
- 5回目 7.29～7.30
参加者数 7名（ほか添乗員1名）、主催者側 ガイド（船頭含む）4名、観光協会1名
- 6回目 8.2～8.3
参加者数 14名、主催者側 ガイド（船頭含む）4名、観光協会1名
その他 環境省羅臼自然保護官事務所 高瀬裕貴氏
- 7回目 8.3～8.4
参加者数 12名、主催者側 ガイド（船頭含む）4名、観光協会1名
その他 羅臼町教育委員会自然環境教育主幹 金澤祐司氏
羅臼町役場水産商工観光課長補佐 田澤道弘氏

●実施回数計7回 参加者数計78名（ほか添乗員4名）、関係者延べ39名

3. モニタリング及びアンケート調査について

（1）モニタリング

①観光協会ツアーモニタリング

ツアーを掌握する観光協会が、反省点や所感等を記載したもの。

【内容】参加者・ツアー内容を管理して実施できているか・参加者の動き・発問事項を実施された全ツアーに同行し記録した。

【結果】特筆事項のみ掲載

漁業に従事されている方の解説には特に質問が増え、内容が深まっていた。赤岩までの移動中、漁業活動や景色（特に灯台）、ヒグマを観察でき非常に喜ばれていた。旅行会社から参加者への事前周知（服装・赤岩地区の環境）が不足していた。服装はガイドによる前日及び当日ホテル出発時の確認徹底により適切な装備に整えられていた。赤岩地区において歩行できなくなった参加者あり。観光協会職員が引率した。携帯トイレを安全に使用できる場所として長谷川別家をお借りした。

【考察】

募集の際の体力レベルを引き上げて周知徹底する必要がある。旅行会社での募集をする場合、事前周知事項をツアー催行者側から参加者に連絡が取れる条件を加えることで改善を図る必要がある。

②植生モニタリング

北海道森林管理局 知床森林生態系保全センターによる植生調査実施

【内容】H26. 8. 14 及び H27. 8. 5、ツアー客が通行する箇所を含むように 3m×100m のプロットを設定し、そこに見られる植物種のリストアップを行った。

【結果】

26 種類（15 科）の植物種を確認した（下記参照）。ツアー客の通行路には、環境省レッドリスト（絶滅のおそれのある種）及び北海道レッドリストに入っている種は見られなかった。ただし、プロットより山側（通行路から外れた箇所）には環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類（VU）に分類されるシコタンハコベが見られた。

【考察】

26 年度と 27 年度の調査データを比較したところ、エゾエンゴサクを除き同じ種が記録された。27 年度調査は、ツアー全日程終了後のものであったが、ツアー客の通行による植生の変化は読み取れなかった。また、両年とも特定外来種や要注意外来種は見受けられなかった。

なお、すでにツアー主催者が植生の踏みつけに対する啓発や足裏等に付着し持ち込まれる可能性のある植物の種を排除する対策も行っているが、プロット外の山側には環境省レッドリスト記載種であるシコタンハコベも自生していることから、これらの対策を続ける必要があると考える。

【参考～赤岩付近の植生について～】

- ・海岸沿い：昔は干場であった箇所だが、現在使われなくなった場所では在来草本等により覆われつつある。
- ・山側：崖斜面の最下部は樹木が少なく、オオイタドリやササ類が中心である。斜面中部は細い広葉樹主体の森林である。斜面上部は細い木が中心だが太い木も散見される針広混交林である。

【プロット内で観察された植物種】エゾノカワラマツバ、ハママムギ、イタヤカエデ、ハンノキ、アキタブキ、エゾオグルマ、エゾヨモギ、コウゾリナ、シロヨモギ、ミヤマアキノキリンソウ、ヤマハハコ、エゾエンゴサク、エゾノシシウド、オオバセンキュウ、ハマボウフウ、オオイタドリ、スイバ、ヤマブドウ、ナナカマド、ナワシロイチゴ、トドマツ、ハマエンドウ、ハマベンケイソウ、キタコブシ、ホオノキ、ノリウツギ。



③知床半島利用者モニタリング

環境省羅臼自然保護官事務所による「原生感アンケート」実施

【内容】

H27.7.18～8.17、知床半島先端部地区における海岸トレッキング利用者の「原生自然感」について、ルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター、相泊に設置された入林箱にアンケートを設置し、利用者を対象に利用前或いは利用後に配布し、記入してもらった。

【結果】

4件(4パーティ:計12名)の回答を得た。エコツアーについて気になるという回答が1件あったが、実際に赤岩ツアーを目にした上で回答しているかは、目にした日時を記載していないため判断できなかった。また、回答数は4件であり、本アンケート結果については、参考データとして扱いたい。

以上のモニタリング結果を踏まえ実施部会で協議した結果、本ツアーが地域への還元できる役割として、以下の事が見いだせた。

- ・現在ヒアリング等で情報収集している昆布漁の歴史を記録資料として残す。
- ・トレッカー・植生・ヒグマ・営巣しているオジロワシ等をモニタリングする。

(2) アンケート

- ・ツアー参加理由について、全体の約42%が「知床についてじっくり学びたかった」と回答した。
- ・ツアー全体の満足度について、全体の約73%が「満足」と回答。「やや満足」を含めると全体の約97%以上が満足した結果となった。
- ・ツアー参加前と参加後の羅臼昆布への関心について、参加者全員が「深まった」「やや深まった」と回答した。
- ・『知床の価値』だと思っている事について、選択式の複数回答式の質問では、参加前後では、選択数が約28%増加した。
- ・「知床の価値」について、選択数が増加した上位は「農業や漁業の営みの歴史・風景」約33%、「自然と共に生きる人々との交流」約29%、「本来の生態系を守る取り組み」約28%となった。選択数が減少した項目では、「世界自然遺産であること」約11%減少となった。
- ・「知床先端部地区で昔から羅臼昆布漁が営まれていたことを知っていたか」については、約50%が「知らなかった」と回答した。
- ・「ツアーを羅臼昆布漁の歴史・文化を伝えるために実施することについて、どのように考えるか」については、全体の約96%が「良いと思う」と回答した。
- ・「今後このツアーを継続することについて、どのように考えるか」について、約84%が「継続すべき」と回答した。「その他」が約15%を占め、その内約82%が“人数”“期間”“自然に影響を与えない”などの制限の上で継続、と回答した。

(3) その他

本ツアーが「教育目的」として適しているか、羅臼町教育委員会自然環境教育主幹 金澤裕司氏に2日間の全行程に同行いただいた。